



NEWS RELEASE

報道関係各位

2007年10月26日
特定非営利活動法人 日本高血圧学会

高血圧と密接に関連する喫煙に対し、禁煙推進の基本方針を明らかに 日本高血圧学会が『禁煙宣言』を発表

特定非営利活動法人 日本高血圧学会（事務局：東京都文京区 理事長：松岡博昭）は、本日、第30回日本高血圧学会総会（会長：瀧下修一、10月25日（木）～27日（土）沖縄コンベンションセンターにて開催）において「禁煙宣言」を発表し、学会としての禁煙推進の基本方針を明らかにしました。

喫煙は、循環器病や癌を始めとする数多くの疾患における主要な危険因子です。また、喫煙者本人だけでなく、受動喫煙によって周りの人に対しても、多大な健康への弊害をおよぼします。

さらに、喫煙は高血圧との関係も深く、血圧の急速な上昇、仮面高血圧、腎血管性高血圧や悪性高血圧の原因となります。循環器病の危険因子としても、高血圧が第一位、喫煙が第二位であり、高血圧治療に携わる医師・医療関係者は、積極的に「禁煙」を推進すべきと考えます。このことをふまえ、日本高血圧学会では、高血圧治療ガイドラインにおいて、これまでも禁煙の重要性を明示・強調してまいりました。

今回の「禁煙宣言」の中では、禁煙推進の具体的な実践のために、日本高血圧学会としての基本方針を、以下のように示しました。

1. 日本高血圧学会会員は禁煙の医学的必要性をよく理解し、自らが喫煙しないばかりでなく患者が喫煙しないように働きかけを行う。
2. 日本高血圧学会の関係する学術講演会や市民公開講座の場合は禁煙とする。
3. 禁煙推進に関する社会的活動を行うと共に、他の学会等の行う禁煙活動にも協力する。
4. 会員は自らの診療において禁煙指導の実践を可能にするとともに、この指導力の保持を日本高血圧学会特別正会員（FJSH）の有すべき臨床技能要件のひとつとして位置づける。
5. 学会常置委員会の責任によって継続的な禁煙活動を行う。

近年は、高血圧患者の多くが、メタボリックシンドロームの増加に見られるように、数多くの動脈硬化危険因子を有しており、多重な危険因子の総合的管理が必要となっています。喫煙もその大きな危険因子であり、日本高血圧学会では、今回の「禁煙宣言」を契機として、高血圧治療に携わる医師・医療関係者が禁煙推進を積極的におこない、喫煙者数の減少と高血圧患者の健康改善を実現するよう努めてまいります。

本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先

日本高血圧学会 広報委員会

第30回日本高血圧学会総会会期中（10月26日・27日）

第30回日本高血圧学会総会事務局 大屋祐輔 Tel：098-942-9212（運営本部）

日本高血圧学会総会会期後（10月28日～）

日本高血圧学会事務局 石光俊彦 Tel：03-6801-9786 FAX：03-6801-9787 Mail：office@jpnsh.org